

令和4年度 第1回太田市公共事業入札等監視委員会 委員コメント

○小川委員長

委員の改選期ということで、5名のうち3名が留任、2名の委員が新たに選任されました。私は引き続き留任ということですが、気持ちを新たに組みたいと思います。

令和3年度の状況の報告を受けました。大型の工事案件はひと段落しているようでした。内容審査では、新任の委員にも制度の理解を深めてもらう意味で、総合評価落札方式の案件について審議対象としました。

入札等の不正を監視するという意味では、最初から最後まで人の問題です。特に事後公表の案件について不正の予防や発見ということとなりますと、市役所職員と業者との人間関係、接点というところに目を凝らす必要があることとなります。

委員のみではそうした役割を果たすことはできませんので、もし情報提供がありましたら、委員会（委員長を仰せつかりましたので、私まで）へ情報をお寄せいただければと思います。

○大谷副委員長

アメリカのニューディール政策に習って、日本の公共工事の景気向上付与力は圧倒的な効果があると考えます。その意味で太田市の場合、地元業者に配慮した入札管理体制や、大規模特殊工事の公平性は担保され、一定の成果を上げているものと思います。

総額では昨年度より一般指名競争入札額は減少したが、随意契約で大きく前年を超えています。

今後はコンペやプロポーザル方式、総合評価点落札方式等をよく調べていきたい。引き続き、適正な発注と監理をお願いしたいと思います。

○大島委員

今回の委員会においては、令和3年度の入札・契約実績について報告を受けました。競争入札と随意契約の合計425件中太田市内の業者が390件を占めていたことは、地域経済の循環という点で喜ばしいことであり、さらに業者選定においてはしっかりと透明性が確保されていると感じました。

また、（新田補助）3宝町幹線管渠築造工事においては、価格以外の要素も含めて総合的に判断する総合評価落札方式を採用して請負業者を決定したとの説明を丁寧にしていただきました。特殊な工事の案件については、適切な業者を決定する上で、今回の方式を積極的に採用して頂きたいと思いました。

○湯澤委員

今回初めて委員会に出席させていただき、まず太田市の入札契約制度などについて、大変分かりやすく説明を受けました。

また、令和3年度の入札・契約実績並びに、令和3年度下半期入札契約の内容審査についても説明・報告を受け、適正であると思いました。

プロポーザル方式による発注工事もあったようで、高度で専門的技術力並びに設計力が必要であることが理解できました。

今後も可能な限り、地元業者の入札参加並びに、地元業者への発注が増えることを期待させていただきます。

引き続き、公正公平な入札執行を期待しています。

○中村委員

今年度より委員を受嘱し、初めての会議に出席させて頂きました。

発展する太田市の公共工事に興味はあれど入札の制度について触れる機会がなかったので、今回大変勉強になったと共に、その公平性を担保する様々な方式とそれに対する管理体制が強く印象に残りました。

市内小学校の給食室の改修を毎年順番に進めているとの報告を受け、税金の使途が明確で、公平公正に地域住民に還元されていることに安心致しました。

全体的には、大規模特殊工事や専門的技術を要する工事もあるため、どの業者でも入札可能という訳にはいかないのですが、地元経済発展のため、今後も太田市内の業者の積極的な入札と、引き続き適正な発注と管理に期待したいと思います。